

## 8 現況及び課題のまとめ

社会経済状況の変化や上位関連計画、及び現況を踏まえ、浜見平地区のまちづくりにおける主要な課題を整理すると、以下のようになります。

### (1) 成熟社会に向けた、住環境の「質」の向上を目指すまちづくりの推進

- ・市の将来人口は平成 32 年度より減少に転じる予測となっており、浜見平地区のまちづくりにおいても、成熟型社会に向けた住環境の「質」の向上を求めていく必要があります。
- ・住環境の質の向上に向けては、団地建替え事業に伴う、住戸規模・性能の向上に加え、まちなかの貴重な緑となっている地区内の既存樹林等を活かしながら、緑豊かで良好な景観まちづくりと人と環境にやさしいまちづくりを展開していく必要があります。

### (2) 様々な世代が暮らす、持続可能なコミュニティの形成

- ・市の将来人口のうち、高齢者については平成 32 年以降も増加する予測であり、また、浜見平地区は市内で高齢化の進んだ地区となっています。
- ・高齢者福祉の充実やバリアフリーの徹底等、高齢化に対応したまちづくりを積極的に展開していく必要があります。
- ・また、様々な世代が暮らす健全で持続可能なコミュニティへと転換を図っていくことも大きな課題であり、多様な世代層の入居を促す観点から、子育て支援の充実、ファミリー世代や高齢者に対しても多様な居住環境を提供していく等、新たな魅力を付加していくまちづくりを展開していく必要があります。

### (3) 周辺の住環境と調和し、生活基盤の向上に資するまちづくりの推進

- ・浜見平地区の周辺には、古くからの閑静な戸建て住宅地が広がっており、地区の開発に際しては、既存の住環境に配慮した建築計画や緑化計画等を進めていく必要があります。
- ・鉄砲道と左富士通りは、市南西部地域の骨格的な道路として機能しており、沿道の空間と合わせてシンボル軸としての景観形成に留意するほか、歩行者空間や緑の充実に対応していく必要があります。
- ・しろやま公園及びグラウンドについては、(仮称)柳島スポーツ公園との役割分担のもと、近隣住民が気軽に利用できる拠点的な公園として、遊びやスポーツ、憩い・交流の場としての機能を充実していく必要があります。
- ・既存のサクラ並木と松尾川雨水幹線は、緑の骨格に位置づけられており、並木の保全や雨水幹線の暗渠上部空間を活用した緑道化を進めていく必要があります。

### (4) 市南西部地域の生活拠点となる利便性に富んだまちづくりの推進

- ・生活拠点ゾーンは、既にハマミーナ(茅ヶ崎市南西部複合施設)と商業施設が整備され、市南西部地域の利便性の向上に寄与しています。今後整備される商業施設と一体化し、生活拠点にふさわしい空間形成とにぎわいづくりにつながる地元参加型のイベント等、地域の活性化とコミュニティ形成の場として活用していく必要があります。

- ・ハマミーナ（茅ヶ崎市南西部複合施設）には、行政サービス窓口や市民活動施設、保育園、地域包括支援センターが整備され、市南西部地域における市民生活の拠点となっており、これらと他施設やボランティア活動の連携等を進めていく必要があります。

#### **（５）地域の災害応急対策活動等を行う拠点としての機能の確保**

- ・浜見平地区は市南西部地域の防災拠点に位置づけられており、大規模災害時に想定される避難者に対応する防災機能を確保していく必要があります。
- ・鉄砲道と左富士通りは緊急輸送道路の補完道路に指定されており、また防災機能を持ったしろやま公園への避難ルートとなるため、電線類地中化やゆとりある歩行者空間の整備等、安全性の向上に努めていく必要があります。

#### **（６）地域医療福祉拠点化の推進**

- ・UR都市機構は、浜見平地区を「地域医療福祉拠点化によるミクストコミュニティの形成」の取り組みを行う地区として位置づけ、既に整備されている医療施設や福祉施設等を核とした地域医療福祉拠点の形成を目指しています。
- ・地域のニーズを踏まえた機能のあり方の検討や地域の関係者の方々との連携・協力体制の構築をしていくことが必要です。

#### **（７）多様で魅力ある住宅供給の推進**

- ・UR都市機構の建替事業の第三期となる低層住宅用地や鉄砲道の南北の街区については、中高年世帯に加え、若者や子育て世帯の居住を促進し、地区内で住み続けられるよう、多様で健康的な魅力ある住宅供給を推進することが必要です。
- ・浜見平地区は「自由な」「明るい」「ゆったりとした」といった茅ヶ崎のイメージを具現化する環境が整っており、人とのつながりや地域とのつながりをより大切にする暮らしを検討していくことが課題です。

#### **（８）様々な世代が協働し、支えあうまちづくりの展開**

- ・まちづくり推進体制については、「浜見平地区まちづくり推進検討会議」による事業調整やデザイン調整が既に複数街区において実践されています。また、NPOまちづくりスポット茅ヶ崎の設立と地域に開かれた会議体「しろやまコミュニティ会議」の創設等、当初計画された組織づくりの段階から、具体的な活動を推進する段階に入って来ています。
- ・今後は、持続可能なまちを実現するために、NPOや会議体を中心に、既存の団体や住民と連携しながら、にぎわいの形成や防災まちづくり等、地域の様々な世代が協働し、支えあう具体的な活動プログラムづくりと実践が課題です。